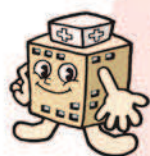


三豊総合病院だより Mitoyo General Hospital

発行●三豊総合病院
発行人●白川 和豊

KOKORO

2012
54



『検査室』が 移転致しました。

平成24年7月2日(月)より旧西棟北の中央検査科と採血室が移転いたしました。1階には心電図・心臓超音波を行う生理検査室と採血・採尿室を設置しました。今までは生理検査室は2階にありましたが、1階に移動したことで放射線科や採血室に近くなり外来での移動距離が短くなりました。また、移転前の採尿室は採血室から遠い位置にあり、ご不便をお掛けしていましたが、今回の移転により採血室の隣になりました。1階フロア内の協力体制をより向上させることと作業動線を考慮して、生理検査受付と採血・採尿受付を同じ窓口を集約しました。これに伴い受付と検査入口がそれぞれ別になりました。ご協力をお願いいたします。また、腹部超音波室は移転していませんので以前と同様に2階の内視鏡センターの横の腹部超音波受付までお越しください。

2階には血液・生化学・免疫などの検体検査室と輸血検査室、微生物検査室があります。検体検査室では生化学自動分析装置1台、免疫自動分析装置1台が新しくなり、また更新に合わせて心筋梗塞やリウマチに関する検査を追加し実施しています。輸血検査では安全で速やかな輸血の実施をより一層進めるために自動輸血検査装置が導入されました。微生物検査室も新しい安全キャビネットが導入され、より安全性の高い設備となりました。

新中央棟完成までは場所が分かりにくくご迷惑をお掛けいたしますが、ご理解、ご協力をお願いいたします。



06 呼吸機能

05 負荷心電図

04 心臓超音波

03 心臓超音波

02 心電図

01 心電図

ゆったりトイレ

検尿の提出場所は、
各トイレ内の奥に
あります。

採尿トイレ入口

採血室

西棟

南棟

14・15で
受付します。



生理検査待合室



生理検査・採血採尿受付



玄関



採血待合室

腹部超音波室は、
従来どおり2階になります。

三豊総合病院地域医療連携協議会を開催して

平成24年7月5日（木）観音寺グランドホテルにて、第6回三豊総合病院地域医療連携協議会を開催いたしました。三豊市・観音寺市、四国中央市より、38医療機関（連携医療機関招待者84名、職員56名）の参加をいただきました。

『病診連携とIT化』をテーマに特別講演として、JA香川厚生連代表理事理事長藤本俊一郎先生をお招きし、講演会を行いました。



今回、出席できなかった先生方・スタッフの皆さんも今後も情報交換の場を提供出来ればと考えておりますので、ぜひご参加いただければと思います。

開催後には、連携医療機関の先生方にアンケートを取り、ご意見を参考に今後の病診・病病連携に努めていきたいと思ひます。

●次号で開放型病床（共同診療）について掲載いたします。

腎センターがリニューアルしました

当院の腎センターは中央棟6階にあり、ベット数32床で入院透析・外来維持透析を施行しています。血液透析・血液濾過透析や血漿交換療法等の各種血液浄化を月・水・金曜日は午前・午後2クール、火・木・土曜日は1クール施行しています。医師3名、看護師7名、臨床工学技士7名、看護助手1名で日々の臨床業務に取り組んでいます。

2011年から2012年5月下旬まで改築工事を施工しており、皆様には騒音等のご迷惑をお掛けいたしました。この度、改築工事を終了し快適な透析ライフを送れる腎センターが誕生しました。

日差しの届く明るい待合室や段差のない広い更衣室も併設しました。また、透析液供給装置・透析用水処理装置も新しくなり、節水・節電に努めながら、よりよい血液浄化療法を提供できる環境となりました。

これからも、皆様の快適な透析ライフを送る一助となるよう、日々一層の努力を重ねていきたいと思ひます。



待ち合室



変わるちから ～緩和ケア病棟機能評価審査を受審して～ 緩和ケア部長 細川 敦之

当院の緩和ケア病棟は2000年4月に開設し、12年が経過しました。地域の方が地域の中でより良い人生を過ごすことができるように、さまざまな医療職種が協力・連携しあって患者様やご家族を支える良質の緩和ケアを提供することを目的に、12年間病棟運営を続けてきました。しかしながら、当院の緩和ケア病棟は2011年7月に高松平和病院に緩和ケア病棟ができるまで県内唯一の緩和ケア病棟であったこともあり周囲に比較する施設が少なく、自分たちのケアが他施設の緩和ケア病棟に負けないだけのレベルに達しているのだろうかと常々考えていました。そこで、緩和ケア病棟のレベルを日本医療機能評価機構という第三者から評価していただき、その結果を今後の質向上に役立てることを目的に日本医療機能評価機構付加機能（緩和ケア）審査を受けることにしました。

結果から言うと2012年2月17日に評価者4名の審査を受け、5月下旬に高評価の認定通知をいただきました。全国には230余の、四国には12の緩和ケア病棟あるいはホスピス病棟がありますが、現在までに認定を受けた施設は全国で20数施設ほどであり、四国では当院が初めての認定になります。

私個人として、当院の緩和ケア病棟が高い評価をいただいた結果には十分満足していますが、それ以上に感動的だったのは受審準備中にスタッフが自覚を持ってどんどん変わり、レベルアップしていったことです。

審査にあたって数十項目にのぼる詳細な評価項目をクリアする必要がありました。受審の8ヶ月くらい前から取りかかった準備では、まず緩和ケア病棟の理念や基本方針を再検討してスタッフに徹底することから始め、次に日々のケアをチェックして不十分な点を洗い出し、改善するためにスタッフ皆で知恵を絞りました。もちろん患者様に向き合う姿勢や患者様やご家族とのコミュニケーション技術のレベルアップにも努め、さらにカンファレンスの方法や情報共有手段についても見直しました。このような作業を進めてゆく中で、多職種で行うカンファレンスや他部署との連携の大切さを改めて感じ、今まで以上に連携強化に努めました。このような一連の準備作業を通してスタッフはどんどん変わっていき、ケアの質も明らかに向上したと思いますし、今まで以上に考えを出し合い、話し合い、改善する姿勢が身についたことは何よりの収穫であったと感じています。

「変わるちから」を身につけたことで、私たちは今後いかなる医療情勢の変化やニーズの変化にも十分対応してゆけると信じています。そして今後は「緩和ケア」について院内外に向けて情報発信していくことも私たちの役割と考えています。これからは患者様の立場や権利、いのちの尊厳を重視する良質の緩和ケアを提供できるようにスタッフ一同で力を合わせていきたいと思っています。

追記）緩和ケア病棟機能評価を受審するにあたり、御協力いただいた方々ならびにボランティアの皆様方に、この場を借りて心よりお礼申し上げます。



最新MRI装置に更新されました

装置更新により、平成24年4月1日から最新MRI装置 フィリップス社製Ingenia 1.5T（インジニア 1.5テスラ：写真1）の運用が開始されました。放射線科6番の部屋で、既存の装置と合わせた2台体制にてMRI検査をしています。

最新MRIの特長

1. 広い開口径と落ち着いた検査室

装置の開口径（トンネル部分）が70cmと以前の装置より10cm広くなり、閉塞感が軽減されています。検査室内はLED照明、木目の床を採用し落ち着いた部屋になっています。

検査中は大きな音が発生しますが、音響システムや耳栓により音を低減し、リラックスして検査ができるように努めています。

2. 高画質な画像が撮影可能

信号を受信するシステムが一新され、人体から出てくる微弱なMR信号を患者さんのもっとも近い部分にてアナログ・デジタル変換します。信号の減衰を無くし、高信号に受信できるため高画質なMR画像が撮影できます。

3. 心臓・冠動脈撮影が可能

拍動と呼吸移動する心臓を高速かつ高精度に撮影します。造影剤を使用せず、被ばくなしで冠動脈（写真2）や心臓の動きを撮影できます。また、造影剤を注入し心筋還流や心筋の生存能力検査も可能です。

4. 多彩な検査を可能なハードウェア

頭頸部、脊椎、体幹、乳房、膝関節、四肢関節が撮影可能な専用コイル（信号を受信する器具）と撮影ソフトを揃えており、全身の多様な検査に対応できます。



写真1 新しいMRI装置

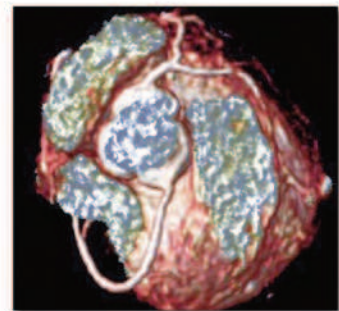
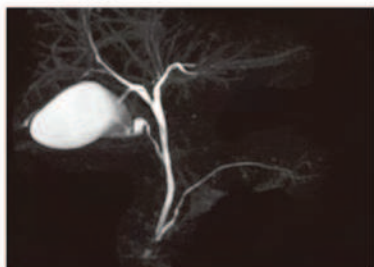
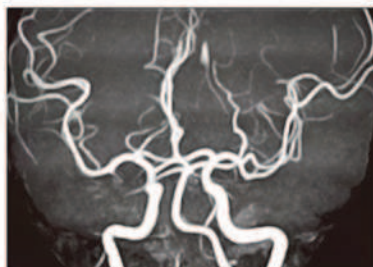


写真2 冠動脈画像

新装置稼働により、病変の存在や広がり診断、血管の形態や狭窄、治療効果の診断と高い検査能力を発揮します。多くの患者様により良い画像を迅速に撮影できるようになりました。



胆管膵管画像



脳血管画像



肩関節画像

紹介状があれば、かかりつけ医より専門外来・検査（CT・MRI等）の予約ができます。検査紹介の場合は、事前の診察は不要です。

検査後はかかりつけ医に結果をお知らせし、かかりつけ医でより専門的な医療を受けることができます。

健診後の特定保健指導

保健指導室

こんにちは。こちらは保健指導室です。

今回、毎日行っている健診後の特定保健指導について紹介したいと思います。

特定保健指導の対象者については、下記の表をご参照ください。

特定保健指導の対象者【階層化】

腹 囲	追加リスク	喫煙歴	対 象	
	血糖・脂質・血圧		40～64歳	65～74歳
男性 85 cm以上 女性 90 cm以上	2 つ以上該当	あり なし	積極的支援	動機付け支援
	1 つ該当			
上記以外で BMI※ 25 以上	3 つ該当	あり なし	積極的支援	動機付け支援
	2 つ該当			
	1 つ該当			

※BMIとは身長と体重から計算される体格指数のこと。

日本肥満学会ではBMI 22以上の場合を標準体重としており、25以上の場合を肥満としている。算出方法は体重(kg)÷身長(m)²

指導方法としては、あらかじめ決められたプログラムに取り組むことなく、対象となった方の健康についての考え方や長年の生活習慣、仕事やご家庭の状況を十分に考慮し、体重や摂取カロリーなどについて、具体的な目標数値を設定し、個別支援、グループ支援、電話、e-mail、FAXなどを効果的に組み合わせ、管理栄養士と保健師がサポートし半年後に生活習慣が改善されたかどうかについての評価をします。

あるデータセンターの試算によりますと、40代で「メタボ」に該当する人は、その後の20年間で、1人あたり医療費の自己負担分(3割負担) 約120万円もかかるそうです。

メタボ対策を行うことは、お財布にやさしい...ということみたいですね(笑)。



わたっ子保育園

わたっ子保育園は、三豊総合病院で働いている職員方の職場復帰を応援するために、平成21年1月7日に開園しました。開園当初は4名という少人数でのスタートでしたが、今では定員も増え、在園児数36名（7月1日現在）という大人数で毎日にぎやかに過ごしています。

子どもたちの年齢は0～5歳と幅広いので、月齢により3つのクラスに分かれて生活をしています。

子どもたちの豊かな心と体を育むために、室内あそびだけでなく、お散歩などの戸外あそびも行っています。子どもたちが笑顔いっぱいでお過ごせるように、また、保護者(職員)の方が安心して仕事に打ちこみ、子育てを楽しんでいただけるように日々の保育に努めています。

もし、病院内外で、かわいい子どもたちを見かけましたら、ぜひお声をかけてくださいね♪♪

<園児の様子>



4月 お花見
みんな歩いて、
一宮公園へ行ったよ。
桜の下で遊んだし、
おやつも食べたんだよ♪

5月 さくらんぼ狩り
園庭にはさくらんぼの
木があるよ♪
みんな収穫楽しかった!!



12月 クリスマス会
園長先生がサンタクロースになって来て
くれたよ♪みんなで歌ったり、ダンス
したい・・・プレゼントももらったよ☆



毎月の行事食

栄養管理科

電子レンジで簡単、温野菜がたくさん摂れるレシピ。
不足しがちなミネラルが豊富、蛋白質や不飽和脂肪酸も
一緒に摂れる夏バテを防止するレシピを紹介します。

ヘルシー&スタミナ冷奴（4人分）



木綿豆腐 …………… 1丁
納豆 …………… 2パック
釜揚げしらす …………… 大さじ4
キムチ …………… 120g
ごま油 …………… 小さじ4
海苔 …………… 適量

- ① 粗みじんにしたキムチに、タレを混ぜた納豆・しらすを混ぜる。
- ② 豆腐は適当な大きさにきり、器に盛り①のをせ、ごま油をかけ、海苔をトッピングする。

キャベツの梅おかか和え（4人分）



キャベツ …… 中 1/2
玉ねぎ …… 1/2
梅干し …… 4個
だし汁 …… 大さじ8
かつおぶし …… 6g
醤油 …… 大さじ1

- ① キャベツは5cm程度の短冊切り、玉ねぎは薄切りにして洗って水気をとっておく。
- ② ①を耐熱ボウルに入れレンジで5分加熱する。
- ③ 梅はみじん切りにし、だし汁・醤油を加え混ぜ、②にかけて和える。最後にかつおぶしを加える。



7月 七夕行事食

ゆかりごはん
魚の照り焼き
水晶冬瓜あんかけ
冷やしそうめん
七夕ゼリー